

株式会社ラーンウェル CSR レポート  
「ミニ起業家とともに創る地域の未来」  
～人が集まり、仕事生まれるまちへの挑戦～

目次

<b>1 はじめに</b>	<b>1</b>
1) CSR レポート作成の目的と意義	
2) 企業と地域社会の関係性	
<b>2 当社 CSR 事業の概要</b>	<b>2</b>
1) 当社 CSR 事業の沿革	
2) 当社 CSR 事業の概要	
<b>3 当社 CSR 事業による直接的な影響</b>	<b>8</b>
1) ミニ起業家育成の成果	
2) 地域経済への寄与	
3) 地域コミュニティ、環境配慮	
4) 認知度の影響	
5) 未来への展望	
<b>4 ミニ起業家たちの事業活動を通じた間接的な影響</b>	<b>13</b>
1) 地域の課題解決	
2) 地域資源の活用	
3) 地域教育の支援	
4) 新たなコミュニティの形成	
5) 人が人を呼ぶ好循環	
<b>5 CSR 事業の成果と今後の方向性</b>	<b>18</b>
<b>6 おわりに</b>	<b>19</b>

資料編

## 1 はじめに

### 1) CSR レポート作成の目的と意義

株式会社ラーンウェル（以下、「当社」）は、専門領域である人材育成を通じて地域社会の活性化に貢献する CSR 事業を推進しています。具体的には、埼玉県比企郡ときがわ町（以下、「ときがわ町」）において、ときがわカンパニー合同会社（以下、「ときがわカンパニー」）を設立し、ミニ起業家の育成を中心とした事業を展開しています。

本レポートは、これまで当社が実施してきた CSR 事業の概要を整理し、その成果を報告することを目的とします。また、地域のミニ起業家たちと共に活動してきた経緯をまとめ、その社会的意義を明らかにすることで、今後の事業発展を検討する資料としても活用していきます。

なお、本レポートは同社 Web サイトで公開し、多くの人々に関心を持ってもらうことも目的としています。ときがわ町やミニ起業家たちの活動を広く発信することで新たな協業先や地域社会とのネットワーク構築の機会創出を図ります。

### 2) 企業と地域社会の関係性

企業と地域社会は、地域の雇用創出や産業の発展と地域経済の成長などの側面で、相互に影響を及ぼし合う関係にあります。本レポートでは、当社の専門領域やときがわ町の地域特性を踏まえ、特に以下の6つの観点に注目して記載します。

- ① 人材育成と教育：専門領域である人材育成のノウハウを活用することで、効果的なミニ起業家の育成を実現する
- ② 地域経済の活性化：小さくても長く続く事業を行うミニ起業家を育成することで、地域経済の継続性や循環を生み出す
- ③ 地域コミュニティとの関わり：ミニ起業家同士や地域住民と協力しながら新たな仕事を生み出したり、地域課題の解決に取り組めるネットワークをつくる
- ④ 環境への配慮：持続可能な環境づくりを推進し、ときがわ町の地域特性を生かした事業を展開するとともに、長期的な影響を考慮する
- ⑤ 透明性の確保：CSR 活動の状況を積極的に公開することで、地域の住民や行政、事業者、その他の関係者との信頼関係を構築し、協働の基盤を強化する
- ⑥ 将来的な継続性の確保：事業を長期的に継続可能にする

これらの観点を重視することで、単なる事業活動の報告にとどまらず、より社会的価値の高い CSR 事業の方向性を示すことを目指します。

## 2 当社 CSR 事業の概要

### 1) 当社 CSR 事業の沿革

当社の CSR 事業は、2016 年 1 月のときがわカンパニー設立から始まりました。ときがわカンパニーは、「ときがわ町に人が集まり、仕事生まれる」というビジョンのもと、地域に根ざした事業を展開しています。以下、現在まで続いている事業を中心に、これまでの CSR 事業の沿革を整理します。

#### 【沿革】

2016 年

- ・ 1 月：「ときがわカンパニー合同会社」設立
- ・ 1 月：インテリア事業部で学校などの内装木質化「ときがわ方式」を推進
- ・ 9 月：インキュベーション事業部で「ミニ起業家」の支援を開始

2017 年

- ・ 5 月：起業支援施設 ioffice オープン
- ・ 10 月：「比企起業塾」開始

2018 年

- ・ 10 月：「ときがわカンパニー通信」の配布を開始

2019 年

- ・ 4 月：「本屋ときがわ町」開始（以降、月 1 回開催）

2021 年

- ・ 4 月：「比企起業大学」開始（以降、年間春・秋の 2 コースを開講）
- ・ 10 月：「比企起業大学大学院（旧比企起業塾）」開始（以降、年間 1 コースを開講）

2024 年

- ・ 3 月：比企起業大学 NFT、比企ら辺まるごとキャンパス化計画（以下、「まるキャン」）開始
- ・ 8 月：比企起業大学「応援団員」募集開始
- ・ 9 月：『比企起業大学 IR レポート』発行

※以下、比企起業塾、比企起業大学、比企起業大学大学院を総称する場合は、「比企起業大学」とする

### 2) 当社 CSR 事業の概要

当社 CSR 事業の主な内容について整理します。

## ●とかがわカンパニー合同会社の設立

2016年1月に、とかがわ町に本社を置く「とかがわカンパニー」合同会社を設立しました。このことにより、地域に根を張った事業を行う会社であることが対外的に示されることとなりました。



【とかがわカンパニーWeb サイト】

## ●インテリア事業部

学校などの内装木質化「とかがわ方式」の推進を支援するために設立しました。とかがわ町の特徴でもある木や木工技術を活用するとともに、こうした産業の継承や自然環境の保全を目的としています。

現在は、「比企起業大学」卒業生の事業を支援することで、とかがわ町産の木の活用による地産地消や木工技術の継承、地域資源の循環などの目的の達成に向けて取り組んでいます。

## ●インキュベーション事業部

「比企起業大学」をはじめとするミニ起業家の育成に取り組んでいます。また、起業支援施設 ioffice を開設し、「比企起業大学」卒業生を対象としたシェアオフィス、コワーキングスペースを運営しています。

また、とかがわ町役場からの委託により、起業希望者からの起業相談も実施しています。

## ●「比企起業大学」

「比企起業大学」では、「年収 300～1000 万円未満」「従業員は雇わない」起業の仕方を「ミニ起業」と位置づけ、こうした経営を行うミニ起業家を育成しています。

2017年には埼玉県川越比企地域振興センター東松山事務所が主催する起業促進事業の委託を受け、比企起業塾がスタートしました。2年目以降は民間事業として運営を継続しています。

また、2021年からはオンラインツールを組み合わせ、比企起業大学および比企起業大学大学院をリニューアルスタートしました。学校教育法上の大学・大学院ではないため、学位その他学校法上の大学・大学院で授与できる資格等は得られない市民大学講座のサービスとして位置づけています。

比企起業大学は、起業するかどうかはまだ分からないけれども、起業に興味がある人たちを対象に、起業家マインドを身に付けることを目的に実施しています。比企起業大学大学院では、地域で半年後に起業したい人や既に起業している人を対象とした実践的な内容で、修了時までに3社の顧客を獲得することを目標に、仲間と切磋琢磨する場として運営しています。

本屋ときがわ町との連携や比企起業大学 NFT、比企起業大学 IR レポート、比企起業大学を100年続けることを目指す「比企ら辺まるごとキャンパス化計画」など、「比企起業大学」に関連した多くの事業が展開されており、当社 CSR 事業の根幹をなす事業です。



【比企起業大学ロゴ】



【比企起業大学大学院ロゴ】



【比企起業大学 Web サイト】



【比企起業大学大学院 第8期の活動報告会の様子】

●ときがわカンパニー通信

ときがわカンパニーでは、現在、月に1回程度、紙媒体の情報発信ツールとして「ときがわカンパニー通信」を発行しています。地元の新聞販売店に依頼し、毎号約4800部をときがわ町(2800部)と鳩山町(2000部)で新聞折込により配布しています。

2025年3月末現在、通常号を83回発行しているほか、不定期で特別号も発行しており、当社CSR事業において、地域住民を対象とした情報発信を担う重要な事業となっています。



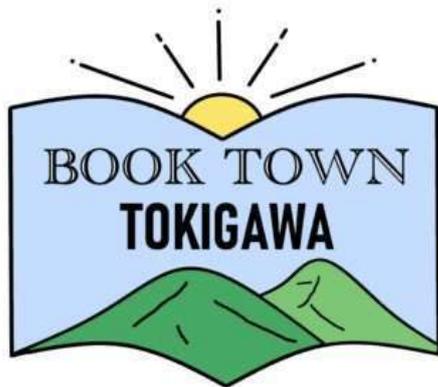
【ときがわカンパニー通信】

●本屋ときがわ町

常設の本屋のないときがわ町で本屋をつくることを目的として、2019年にスタートしました。毎月第三日曜日に定期開催しており、2025年3月末現在の開催回数は72回となりました。ミニ起業家による本や物販のほか、講座やワークショップなども出店可能としており、チャレンジショップとしての機能を持っています。

2019年から2022年までは、小さな専門書店が集まる町として日本初の「BOOK TOWN」を目指すことを掲げていましたが、2023年1月からは比企起業大学と関連付け、「ミニ起業家が集まる場」としての「本屋ときがわ町 v.2」として運営し、2025年1月からはその発展形として Learning Town を目指した「マナビバ！本屋ときがわ町 v.3」へとリニューアルを重ねています。

起業や「比企起業大学」に興味のある人、ミニ起業家の活動を知りたいと思う人にとって、気軽に訪れることができる場となっており、地域住民やミニ起業家同士の交流の場としての役割も果たしています。



【本屋ときがわ町ロゴ】



【本屋ときがわ町開催の様子（外観）】



【本屋ときがわ町開催の様子（内観）】



【本屋ときがわ町での講座開催の様子】

### 3 当社 CSR 事業による直接的な影響

ここからは当社 CSR 事業の大きな軸となる「比企起業大学」、「本屋ときがわ町」、「ときがわカンパニー通信」の3つの事業を取り上げ、「1 はじめに」の「2) 企業と地域社会の関係性」で掲げた5つのポイントに沿って、当社 CSR 事業による直接的な影響について記載することとします。

#### 1) ミニ起業家育成の成果

##### ポイント①「人材育成と教育」

(専門領域である人材育成のノウハウを活用することで、効果的なミニ起業家の育成を実現する)

#### ●比企起業塾、比企起業大学・大学院（以下、「比企起業大学」）

2017 年から比企起業塾、2021 年からは比企起業大学および比企起業大学大学院として、大企業向けの研修事業で培った人材育成ノウハウや東京大学大学院で学んだ学術的な知見を活かして、実践的なミニ起業家の育成に取り組んでいます。

2025 年 3 月末現在、比企起業塾および比企起業大学大学院修了者は 27 名、比企起業大学卒業生は 51 名、合計延べ 78 名が受講を完了。このうち副（複）業・兼業も含めて起業している人は 66 名（約 85%）に達しています。また、受講完了者 78 名のうち、女性が約半数（約 46%）を占めていることも特徴です。

2024 年に実施した IR アンケート調査では、起業活動に関する満足度は 50%を超えていることが確認できました。また、「比企起業大学」での学びを事業に活かして、収入に良い影響が出ることで自身の起業満足度や家族の満足度、家族との関わりへの満足度、人生満足度にも良い影響が出ることを確認することができました。

各学期の卒業レポートでも、「起業を学び合う仲間ができた」「行動することの重要性を学んだ」といった声が多く寄せられています。単に起業を学ぶ場としてだけでなく、実際の行動に結びつき、仲間とのつながりを得られる場としての価値が高いことが伺えます。

「比企起業大学」は学校教育法上の大学・大学院ではありませんが、高校や大学のないときがわ町において、大人が学び続けられる場所や仲間づくりの場、地域における新たな働き方の選択肢を生む役割をも果たしているといえます。

【比企起業大学の受講者数】

年度	学期	合計	女性	男性
2021	春	7	3	4
	秋	7	5	2
2022	春	6	3	3
	秋	7	3	4
2023	春	7	3	4
	秋	6	0	6
2024	春	5	2	3
	秋	6	1	5
合計		51	20	31

【比企起業大学大学院（旧比企起業塾含む）の受講者数】

年度	期	合計	女性	男性
2017	1	4	3	1
2018	2	5	3	2
2019	3	6	3	3
2020	4	5	3	2
2021	5	1	1	0
2022	6	2	1	1
2023	7	2	2	0
2024	8	2	0	2
合計		27	16	11

2) 地域経済への寄与

ポイント②「地域経済の活性化」

（小さくても長く続く事業を行うミニ起業家を増やすことで、地域経済の継続性や循環を生み出す視点）

●比企起業塾、比企起業大学・大学院（以下、「比企起業大学」）

「比企起業大学」では、「年収 300～1000 万円未満」「従業員は雇わない」起業スタイルを「ミニ起業」と定義し、小さく始めて、大きくせずに長く続ける経営を目指す「ミニ起業家」を育成しています。そのため地域に多くの雇用が生まれるわけではありませんが、長く続く経営スタイルのミニ起業家を地域に増やすことに寄与しています。こうした起業が定着すれば、地域の企業

に雇用の受け皿がなかったとしても、地元に戻って自分で仕事をつくって暮らすという働き方の選択肢をつくることにもつながります。ミニ起業家たちの事業を通じて、それまで地域になかった商品やサービスが生まれており、その分だけ地域経済に新たな市場が生まれているといえます。

また、「比企起業大学」が起業のことを学べる教育コンテンツとして確立していること自体も、地域経済における重要な成果の一つです。

### ●本屋ときがわ町

本屋ときがわ町では、「比企起業大学」卒業生を中心とするミニ起業家が出店し、商品販売やワークショップなどによって収益を上げる機会を提供しています。本や本に関するものに限らず、出店を可能にすることで、チャレンジショップ的な役割を果たしています。

出店者にとっては、自分のお店を持つ必要がなく、出店料を支払うことで、気軽に自分の商品を販売することができます。また、本屋ときがわ町を定期的に訪れる来場者に話を聞く、反応を見るなど、新規のお客さま獲得のための営業に使える場としても活用できる場となっています。

また、来店者にとっても、本屋のないときがわ町で本を買うことのできる機会が創出されており、本をきっかけとしたコミュニケーションも生まれています。

## 3) 地域コミュニティ、環境配慮

### ポイント③「地域コミュニティとの関わり」

(ミニ起業家同士や地域住民と協力しながら新たな仕事を生み出したり、地域課題の解決に取り組めるネットワークをつくる)

本屋ときがわ町は、「比企起業大学」関係者だけでなく、地域住民の方も気軽に訪問できるイベントになっているため、地域との交流促進に貢献しています。町内のみならず町外から訪れる人もおり、町内外の交流や起業家同士の交流、地域住民と起業家の交流など、多様な人同士の交流が生まれています。

2025年3月末現在、本屋ときがわ町の開催回数は72回となっています。毎回20~30人程度の来場者があり、1回あたりのイベントとしては小規模ですが、累計2000人以上の来場があったとすると、人口1万人の町における影響は決して小さくありません。

また、本屋ときがわ町を訪れる来場者は、単なるお客さまというよりは、一度訪れた方が何度も足を運んだり、知り合いを連れてきたり、あるいは出店する側に回るなどといった関わり方も生まれてきています。毎月1回、定期開催することでゆるやかなコミュニティが形成され、多様な交流や地域のにぎわいが生まれる場となっています。

#### ポイント④「環境への配慮」

(持続可能な環境づくりを推進し、ときがわ町の地域特性を生かした事業を展開するとともに、長期的な影響を考慮する視点)

当初はインテリア事業部において、学校などの建物の内装木質化「ときがわ方式」を推進していましたが、現在は、「比企起業大学」卒業生の活動を通じて地域の事業者と連携し、地域の資源を積極的に活用することで、森林保全や木材活用、伝統技術の継承などの推進を支援しています。

具体的には、「比企起業大学」の卒業証書では、ときがわ町の職人が漉いた和紙を使用しています。また、「比企起業大学」を100年続けることを目指した「比企ら辺まるごとキャンパス化計画」では、地元の木の活用や森林の保全に取り組む「比企起業大学」卒業生に木製の看板づくりを依頼し、木の地産地消や資源循環、木工産業の継承・育成に寄与しています。

「比企ら辺まるごとキャンパス化計画」では、ときがわ町産の木材を活用して、毎年1本ずつ木製看板を建設していく計画であり、長期にわたる環境への影響を考慮しています。



【比企ら辺まるごとキャンパス化計画の未来図】



【丸太看板】

#### 4) 認知度の向上

##### ポイント⑤「透明性の確保」

(CSR活動の状況を積極的に公開することで、地域の住民や行政、事業者、その他の関係者との信頼関係を構築し、協働の基盤を強化する視点)

地域で事業を行っていくためには、地域住民からの認知や理解、信頼は必要不可欠な要素です。Web サイトや SNS などによるデジタルな情報発信だけでなく、ときがわカンパニー通信の発行を通じて、地域住民が手に取りやすい紙媒体の情報発信を組み合わせることで、地域住民への理

解促進を図っています。この取り組みによって、地域住民が活動の様子を目にする機会が増え、直接、地域住民から声をかけられることも増えています。

また、ときがわカンパニーの事業だけでなく、「比企起業大学」卒業生がどんなミニ起業家なのか、その人たちがどんな事業を行っているのかについても周知する役割を果たしており、ミニ起業家の事業への理解や信頼性を高めることにも寄与しています。

## 5) 未来への展望

### ポイント⑥「将来的な継続性の確保」

(事業を長期的に継続可能にする視点)

2024年、新たな取組として「比企起業大学」を100年続けることを目指した「比企ら辺まるごとキャンパス化計画」が始動しました。100年続けるためには、「比企起業大学」関係者だけでなく、地域住民をはじめとする多様な方々からの応援が不可欠であることから、比企起業大学 NFT を活用し、応援団員を募る取り組みを行いました。その結果、法人11社、個人4名、一般28名から、総額80万円の応援金をいただくことができました。いただいた応援金は「比企起業大学」の丸太看板の製作費に活用したほか、来年度以降の看板製作にも活用していく予定です。

また、看板の製作や建設にあたって開催した「伐採祭り」、「ほりほり祭り」、「わっしょい祭り」では、「比企起業大学」卒業生以外からも参加者を募ったほか、地元を中心としたメディアへのプレスリリースを行いました。その結果、埼玉新聞の朝刊に掲載されたほか、ゆずの里ケーブルテレビの番組でも取り上げられました。

こうした取り組みを通じて、地域での活動を今後も継続していくためには、自社による情報発信だけでなく、プレスリリースなどのパブリシティの取り組みによって地域に関わる人たちの理解や信頼を得ることがますます重要になると実感することができました。



【埼玉新聞の記事】



【ゆずの里ケーブルテレビでの放送】

## 4 ミニ起業家たちの事業活動を通じた間接的な影響

ここでは「比企起業大学」卒業生でもあるミニ起業家たちの事業を通じて、地域で起こっているさまざまな間接的な影響について取り上げます。「比企起業大学」卒業生は延べ78人おり、それぞれが個性的な事業を展開しています。その中でも、ときがわ町をはじめとする比企地域周辺で活動している卒業生の活動を取り上げ、地域への影響について考察します。なお、ここで取り上げるのは一部の事例にすぎないことを付記しておきます。

### 1) 地域の課題解決

#### ●移住促進と空家対策

- ・尾上美保子さん（比企起業大学大学院1期生）

不動産事業により、空家の掘り起こしや移住希望者とのマッチングによる空家・空地の活用が進んでいます。移住希望者なら誰でもいいわけではなく、しっかりと事前にヒアリングを行い、ときがわ町に住み続けてもらえるか、地域コミュニティに溶け込むことができそうかなどの観点からマッチングを図っています。そのため手間と時間はかかりますが、物件の売り手にとっても買い手にとっても良好な関係が築かれています。こうした移住に関する相談窓口があることは、行政や都内の移住支援機関からも喜ばれており、ときがわ町における移住の促進や空家対策に貢献しているといえます。

#### ●ニュータウンの再生

- ・菅沼朋香さん（比企起業大学大学院2期生）、本家豊大さん（同大学院3期生）

鳩山ニュータウンに移住し、空家の1階部分をリノベーションした「ニュー喫茶幻」を運営しています。町内外の個性的な人が集まる場が形成され、地域のにぎわい創出につながっています。

また、本家さんは現在、鳩山ニュータウン内の公共施設「鳩山町コミュニティ・マルシェ」のコミュニティディレクターとして、地域のコミュニティづくりや町内外の人の交流拠点、クリエイターの活動の場づくりなどの事業を展開しています。これらの活動を通じて、高齢化の進むニュータウンを訪れる人や新たに移り住む人が増えたり、地方創生事例として取り上げられて町の認知度が向上したりするなどの波及効果も生まれています。



【鳩山町コミュニティ・マルシェの外観】

### ●遊休農地の活用

- ・飯島紘一さん（比企起業大学大学院1期生）、千春さん（同4期生）

鳩山町内の遊休農地を活用した農業経営を行っています。2015年頃に鳩山町に移住し、2018年に就農して、現在は約2haの農地を借り受けてネギ類やニンニク、有機野菜の栽培を行っています。鳩山町においては、農業者の高齢化や後継者不足が深刻な課題となっており、担い手の減少とともに農地の遊休化が進んでいます。こうした地域において遊休農地を借りて就農し、専業農家として経営を継続していることは非常に大きな意味を持ちます。移住関係のテレビ番組などでたびたび取り上げられており、町の認知度向上にも一役買っています。

また、最近では就労支援施設と連携し、障がいや難病で一般企業で働くことが難しい方と共に働く農福連携事業を展開しています。

- ・大塚洋一郎さん（比企起業大学2022秋生）

ときがわ町や東秩父村の遊休農地を活用し、米や大豆、小麦などを栽培しています。また、収穫した農作物を使った味噌づくりやお菓子づくりなど、体験型のサービスを展開することにより、都市部と地方の人の新たな交流機会を生み出しています。



【自家製小麦を使ったスコーンづくり】

## 2) 地域資源の活用

### ●「アウトドア部」「ときがわアウトドア協議会」

ときがわ町は自然環境が豊かであることから、アウトドア関連の事業を行っている「比企起業大学」卒業生も見られます。たとえば以下のような事業が展開されています。

- ・青木江梨子さん(比企起業大学大学院2期生)・・・株式会社 NONIWA、キャンプ民泊 NONIWA、アウトドアショップ GRID の運営
- ・丹澤邦夫さん (比企起業大学大学院4期生)・・・TENKU CAMP BASE 奥武蔵の運営
- ・渡部典子さん (比企起業大学 2021 春生)・・・公共施設を活用した女性ソロキャンパー限定の「静かなキャンプフィールド」の運営
- ・可沼広隆さん (比企起業大学 2022 秋生)・・・アウトドアナースマンとして活動、モルックブレジャー
- ・中島努さん (比企起業大学 2023 春生)・・・屋号「sherpa」、ゴムカヤック、トレッキングツアーの運営

また、町内の事業者と連携しながら、「ときがわアウトドア協議会」を設立し、「アウトドアタウンときがわ」という合言葉を掲げて、アウトドアマップの制作やアウトドアイベントの開催などにも取り組んでいる方々もあり、ときがわ町の観光振興や認知度向上に寄与しています。



【ときがわアウトドア協議会によるイベント開催の様子とオリジナル手ぬぐい】

## ●木材活用

・山口直さん（比企起業大学大学院3期生）

ときがわ町で製材業を営み、地元の木を活用した事業に取り組んでいます。ときがわ町は面積の約7割が森林ですが、木を伐採する人や製材業に従事する人が減少しており、地域内の木材サプライチェーンが途切れてしまっているという課題があります。地元の木を活用することで、将来的な森林資源の保全や山の維持・活用を目指しています。

最近では、伝統構法を扱う建築士と協力し、大工の技術を学びながら継承し、ときがわ町産の木材の特性を活かした技術の継承や建築の発展を推進しています。この取り組みにより、森林や自然景観の維持・保全だけでなく、地域資源の循環や地域産業の継続にも貢献しています。

また、木材加工で生じる端材の有効利用として、地域外のベンチャー企業と連携した「木のお酒」づくりにも取り組んでいます。



【製材の様子】

・佐藤克己さん（比企起業大学2023秋生）

山口直さんと連携しながら、ときがわ町産の木を使った製品づくりに取り組んでいます。また、2024年には、閉業した木工職人のときがわ町内の作業場を引き継ぎ、町内のイベントに出店するなどの活動も行っています。

## 3) 地域教育の支援

### ●小中学校におけるICT支援

・栗原直道さん（比企起業大学大学院講師）、風間崇志さん（比企起業大学大学院2期生）

2020年から始まった新型コロナウイルスの影響により、ときがわ町内の小中学校も一時閉校を余儀なくされました。そうした事態に対応するため、児童生徒1人に対して1台のタブレット端

末が貸与されたことを受けて、小中学校において ICT の活用推進を担う ICT 支援員として活動を行いました。比企起業大学の運営や企業研修などを通じて身に付けた ICT スキルを、地域の小中学校での ICT 活用に応用することで、地域教育における貢献につながっています。

#### 4) 新たなコミュニティの形成

・ ずこちさん (比企起業大学大学院 6 期生)

オンラインを活用して、SNS を活用したマーケティングのノウハウを学ぶ場として、2023 年に新たにおうち起業部がスタートしました。「比企起業大学」で学びきれなかった具体的なスキル習得の場として、ずこちさん主導のもとで立ち上がった新たな取り組みです。ここでは毎月のセミナーやグループコンサル会を通じて、実践的なスキルを身につける機会を提供しています。



【おうち起業部ロゴ】

#### 5) 人が人を呼ぶ好循環

「比企起業大学」の特徴の一つとして、ミニ起業家同士の横のつながりが挙げられます。受講を通じて同期や先輩・後輩、講師とのつながりが生まれることにより、自分一人ではできないアイデアが生まれ、そこから新たな商品やサービスなどが生まれています。それぞれのミニ起業家が、自身のことだけでなく、お互いの活動や商品・サービスを紹介し合うことで、こうしたミニ起業家たちが活動している拠点としてのときがわ町や「比企ら辺」といった地域そのものの認知拡大も図られていると考えられます。

また、こうしたミニ起業家たちの活動に魅力を感じて地域を訪れる人も増えており、人が人を呼び、新たな人脈がつくられ、それがまた新たな人を呼ぶという好循環が生まれています。

## 5 CSR 事業の成果と今後の方向性

以上、当社 CSR 事業による直接的な影響と、ミニ起業家の事業活動を通じた間接的な影響について述べてきました。これらを振り返り、今後の当社 CSR 事業の継続の方向性について整理します。

まず、「3 当社 CSR 事業による直接的な影響」においては、「比企起業大学」を通じたミニ起業家の育成を中心として、①人材育成と教育、②地域経済の活性化、③地域コミュニティとの関わり、④環境への配慮、⑤透明性の確保、⑥将来的な継続性の確保の6つのポイントについて、ときがわ町をはじめとする地域で生じている好影響について見てきました。

これらは最初から意図したものというよりは、まず小さく始め、続ける中で改善が図られてきたことによる成果と考えられます。もちろん、すべてがうまくいったものばかりではなく、軌道に乗らずに辞めざるをえなかったものも多くあります。それらを単なる失敗と捉えるのではなく、チャレンジした一つの結果であると捉え、チャレンジを続けることを通じて得た学びや、築いてきた地域との関係性の上に成り立っているのだといえます。

また、「4 ミニ起業家たちの事業活動を通じた間接的な影響」では、地域の課題解決や地域資源の活用など、ミニ起業家それぞれの事業活動において見られる地域への貢献について述べてきました。この中で特筆すべきこととしては、ミニ起業家の事業活動を通じた間接的な影響は、「比企起業大学」卒業生の数だけあるといっても過言ではないほど多岐にわたっていることです。

これらも最初から意図した動きというよりは、ミニ起業家の育成という当社 CSR 事業を継続する中で、ミニ起業家とのつながりやミニ起業家同士のつながりから生まれてきた派生的な動きの結果であると考えています。

このように当社 CSR 事業は、続けることによってこそ、予期せぬ成果や投じた時間やお金といったコスト以上の成果が得られるものであることが特徴であるといえます。そのため、当社 CSR 事業を継続することによって、これらの成果を継続的なものとするとともに、より大きな成果が生まれることが期待できることから、引き続き CSR 事業を行う意義があるといえます。

一方で、本レポートでは、当社 CSR 事業やミニ起業家の事業活動が地域にどんな影響を及ぼしているかについては明らかにしましたが、具体的にどのくらいの経済的・社会的インパクトにつながっているかなどの定量的な成果について詳細に把握し、評価することはこれからの課題であると考えています。

## 6 おわりに

本レポートでは、当社のCSR事業のこれまでの歩みを振り返り、その成果を整理してきました。当社CSR事業としては、2016年1月にときがわカンパニーを設立してから、本年でちょうど10年の節目を迎えます。この間、私たちは「比企起業大学」をはじめとするミニ起業家の育成や本屋ときがわ町などの数々のチャレンジを行い、地域に根ざした長く続く事業づくりを推進してきました。その結果、多くの方が新たな働き方を実現し、地域経済にも新たな市場が生まれ、地域に多様な変化が生まれつつあります。

これらの取り組みは、決して私たちだけの力で成し遂げられたものではありません。地域住民の方々の理解と支援、ミニ起業家たちの起業家マインドの発揮と協力があってこそ、私たちも挑戦を続けることができました。私たちは、この10年間の成果を誇りに思うとともに、今後も地域やミニ起業家の皆さまとともに、新たな価値を生み出していきたいと考えています。

改めて、これまで当社CSR事業を支えてくださった地域関係者の皆さま、そして挑戦を続けるミニ起業家の皆さまに、心より感謝を申し上げます。比企つづき、どうぞよろしく願いいたします。

## 【資料編】

本レポート作成にあたり参考にした、ときがわカンパニーおよび比企起業大学 Web サイトの主な記事の URL を以下に記載します。

### ●ときがわカンパニー合同会社

- ・ 設立

<https://tokigawa-company.com/hello/>

- ・ インテリア事業部

[https://tokigawa-company.com/wooden\\_interior/](https://tokigawa-company.com/wooden_interior/)

- ・ インキュベーション事業部

<https://tokigawa-company.com/incubation0/>

### ●比企起業塾

- ・ 開講

<https://tokigawa-company.com/hikikigyojuku5kai/>

### ●比企起業大学

- ・ 比企起業大学の目指す姿

<https://hiki-kigyo-college.com/2023/10/16/vision-of-hiki-kigyo-college/>

- ・ 比企起業大学開校

<https://tokigawa-company.com/hiki-kigyo-college-begins/>

### ●比企起業大学 IR レポート

<https://hiki-kigyo-college.com/2024/06/26/ir-analysis/>

### ●比企ら辺まるごとキャンパス化計画

- ・ 比企ら辺まるごとキャンパス化計画

[https://tokigawa-company.com/maru-can\\_240301/](https://tokigawa-company.com/maru-can_240301/)

- ・ 「応援団員」募集開始

[https://tokigawa-company.com/to-be-hkc-supporters\\_240828/](https://tokigawa-company.com/to-be-hkc-supporters_240828/)

- ・ 「応援団員」結果報告

[https://tokigawa-company.com/hiki-supporters\\_240930/](https://tokigawa-company.com/hiki-supporters_240930/)

・「伐採祭り」

[https://tokigawa-company.com/marucan-bassai-matsuri\\_24/](https://tokigawa-company.com/marucan-bassai-matsuri_24/)

・「ほりほり祭り」

[https://tokigawa-company.com/hori-hori-matsuri-done\\_241208/](https://tokigawa-company.com/hori-hori-matsuri-done_241208/)

・「わっしょい祭り」

[https://tokigawa-company.com/1st-wasshoi-matsuri-done\\_250125/](https://tokigawa-company.com/1st-wasshoi-matsuri-done_250125/)

・「わっしょい祭り」プレスリリース

[https://tokigawa-company.com/press-release\\_250120/](https://tokigawa-company.com/press-release_250120/)

・埼玉新聞への掲載

[https://tokigawa-company.com/saitama-shinbun\\_250206/](https://tokigawa-company.com/saitama-shinbun_250206/)

●本屋ときがわ町

・本屋ときがわ町

[https://tokigawa-company.com/booktown-tokigawa\\_190221/](https://tokigawa-company.com/booktown-tokigawa_190221/)

・本屋ときがわ町 v.2

<https://tokigawa-company.com/book-town-tokigawa-46th/>

・マナビバ！本屋ときがわ町 v.3

<https://tokigawa-company.com/book-town-tokigawa-v3/>

●ときがわカンパニー通信

<https://tokigawa-company.com/shinbun-oriokomi-181026/>

**【後記】**

本レポートは、比企起業大学の学長として、また、本屋ときがわ町の立ち上げ当初から関わらせていただいている立場から執筆しました。2018年に比企起業塾（2期）を受講して以来、いくつもの取り組みに関わらせていただいています。今回も貴重な機会をいただき、ありがとうございます！

（執筆者：風間崇志）